

## ◆ 今こそ大事な「咸宜」の心

毎年2月23日は「咸宜園の日」です。廣瀬淡窓が現在の地に咸宜園を開いた日にちなみ、2012（平成24）年に定められました。市では、この日に関連して講演会等を開催しています。

咸宜園は、大分県日田市・茨城県水戸市・栃木県足利市・岡山県備前市の4市で申請を行った「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」のストーリーが2015（平成27）年に国（文化庁）が創設した日本遺産の第1号認定を受けました。

そんな咸宜園の「咸宜」とは「咸く宜し」という意味で、“すべてのことがよろしい”という、年齢・学歴・身分を問わず、門下生一人ひとりの意思や個性を尊重する淡窓の教育理念が込められています。

そして、この「咸く宜し」の考え方は今の時代にこそ必要な考え方ではないでしょうか。現代では社会の多様化が進む一方で、特定の人や団体に対して社会から排除しようとするような事象も起きています。

例えば、特定の国の出身者、又はその子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとするなどの一方的な言動「ヘイトスピーチ」や、新型コロナウイルス感染症等に関する知識や理解の不足から、日常生活や学校、職場等、社会生活の様々な場面で差別やプライバシーを侵害されるなどの人権問題が発生しています。その他にもインターネット上でその匿名性を利用し、他人を誹謗中傷したり、個人の名誉やプライバシーを侵害したり、あるいは偏見・差別を助長するような情報を発信したりするといったことも発生しています。

このように、未だ解決できない様々な人権問題に対して「咸く宜し」の考え方を一人ひとりが持つことで、全ての人の意思や個性が尊重される社会に近づくのではないのでしょうか。